

1) 一宮市の現状と課題、市民のニーズ

総合計画とは何か

総合計画とは、市政を計画的に進めるための方針で、計画期間は10年としています。もう少し分かりやすく言えば、まちづくりの考え方と目標を明らかにし、その実現のために何を行うのかということをもとめた、市政運営の最も基本となる計画ということです。

今回は計画策定の段階から、多くの市民の皆さんに参画をいただき、策定までに3年かかりました。

計画の構成は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」、この3つから成り立っています。

基本構想は、まちづくりの基本理念と本市の目指す将来像を示しています。市民ニーズに基づいたまちづくりの目標を明らかにするものです。

それに基づいて基本計画があります。基本構想のところで明らかにした、目指す将来像、それからまちづくりの目標を実現するために、市がどういう施策を行うか、をまとめた部分になります。

実施計画については基本計画に基づいて具体的にどのような事業をしていくのかを、毎年度向こう3年分の計画をまとめて発行していくものです。

計画策定の考え方

今回の総合計画の策定にあたりまして、前提として、合併のときに作りました新市建設計画を尊重してその趣旨と内容を踏まえたものにしていきます。その上で、3つの考え方で計画策定を進めました。

1つ目が、市民との協働による策定です。計画作りを進めて行くそれぞれの段階でいろんな形で市民の皆さんに参画・参加をしていただきました。

2つ目は、まちづくり活動の成果が測定できる指標の設定です。計画を作って実際に動き出したときに、その計画がきちんと進んでいるのかいないのかということは当然わからなければならないので、そのために、誰が見ても明らかな指標、数字で測れるような指標を作りました。

3つ目は読みやすくわかりやすい計画書にすることです。できるだけ簡潔に、そして現状を表すような図表なども載せていきます。

今回の総合計画の特徴

これまでの第5次総合計画までは、どちらかといいますと事業が先にあって、後から目標を立てる、といった作り方をしていましたが、今回は、まず、まちづくりの目標と課題の明確化を行いました。こうして決められた重要なまちづくりの課題が57個あります。

その後、こういう目標でこういったことの解決を目指していきます、ということをもとめて基本構想を策定しました。

さらに、重要なまちづくりの課題の改善状況を確認するための指標と、その目標値、その実現のための役割分担値を設定しました。

また、重要なまちづくりの課題を取り巻いている現状と課題の分析、それから市として施策を行っていくときの基本方針の作成は市で行いました。

まちづくりの目標と重要な課題の決定は市民アンケートで

まちづくりの目標と重要なまちづくりの課題は何か、を明確にするために、グループインタビューの実施、まちづくりの課題の整理、市民アンケート調査の実施、それから重要な住みよさのキーワードとまちづくりの課題の追加、そしてまちづくりの目標と課題の決定、というように進めました。

グループインタビューは、実際に一宮に住んでいる方 87 人に集まっていたいて、どういうまちというのが住みやすいまちなのか、住みたいまちなのかということを、網羅的に洗い出そうとするものです。

できるだけいろんな意見を出してください、ということを平成 17 年に 6 週やりまして、886 項目の意見が出てきました。すごく大きい話もあれば、小さい話もあります。

この 886 項目を似ているものをまとめたり、あまり大きいことはバラしたり、といったことをして 103 項目にまとめた上で、10 個のグループに分けました。それぞれのグループにタイトルをつけてみたら、共生、はぐくみ、快適、活気、便利、自立、連携、健全、安全・安心、ふれあい、といったようになりました。

このようにまとめて整理したもので、市民アンケート調査を実施しました。その目的は、多くのみなさんが大事だと思っていることは何だろうということを明らかにすることです。市民 6,000 人を対象に調査をいたしまして、2,717 人の方にお答えをしていただきました。この結果として、多くの方が重要だと言われたもの、優先して解決すべきであろうと思われる課題、あるいはキーワードとして「6 個のキーワード」と「41 個の課題」を採用したというわけです。重要なことは一部の市民が言ったから、ではなくて、みなさんに聴いてみて、こういうものが重要ですよ、と上がってきたものをまちづくりの目標にしたことです。

そして、これからのまちづくりに欠かせないと市が判断したキーワードとまちづくりの課題を重要なものとして 16 個追加しました。追加したキーワードは「連携」です。

その結果として、まちづくりの目標として「7 つのまちづくりの目標、住みよさのキーワード」と、「57 個の重要なまちづくりの課題」を決定いたしました。

市民と市が共有できる指標づくり

総合計画を推進していくためには市民と行政の協働が大事ですが、そのためには、市民と行政の双方が共有できる共通の尺度が必要になります。そこで、その共通の尺度作りを、公募の市民会議で市民の目線から検討をしていただきました。

市民会議でやっていただいたことは 3 つです。「まちづくり指標の設定」「目標値の設定」「役割分担値の設定」この 3 つをしていただきました。

まちづくり指標は、成果の部分を数値で測れるような指標を設定していただきました。もちろん、重要なまちづくりの課題、目指すべき姿を測るのに、2 つないし 4 つの指標を見ればすべて分かる、なんてことは全然思っていません。まちが良くなっていくことをイメージする際、どういう指標だったらある程度分かるか、という視点でこの指標ができています。

せっかくそれを作ったら、今度はどこまでやるのか、が必要ですので、目標値を設定していただきました。目標を設定する為には現状がわからなくてはなりませんが、その現状値は客観的な指標であれば統計数値を利用し、主観的な数値は市民 3,000 人を対象として、アンケートを行いました。

こういったプロセスを経て、170 個の指標とその目標値を設定しました。

これらの目標を達成するためには、課題を取り巻く様々な主体がそれぞれの役割を果たすことが必要です。そこで、個人・家庭、町内会・NPO・ボランティア団体、民間企業、学校、市、県・国といった 6 つの主体に期待される、重要なまちづくりの課題を改善するための役割の大きさを 100 人程の方に聞きまして、役割分担値というものも設定しました。

市として取り組むことは何か

市はまちづくりの主体の一つと位置づけられますが、その主体の一つとして、その課題の改善のためにどう取り組むのか、ということを 56 個の施策という形でとりまとめています。重要なまち

づくりの課題が 57 個あって、施策が 56 個とだと 1 個少ないわけですが、重要なまちづくりの課題のあるものについては、施策にするとときに 2 つに分けました。また 2 つの重要なまちづくりの課題をまとめて 1 つの施策というふうに作ったものもあります。というわけで、数字は合いませんが、56 の施策が決定しました。

まちづくり指標を活かした PDCA サイクル

計画の推進に当たっては、市だけで進めるつもりは全くなく、市民の皆さんと一緒に進めていきたいと考えています。

基本的な考え方としては、PLAN：計画を立て、DO：その計画に基づいて事業を実施し、CHECK：事業の成果を測定・評価し、ACTION：その結果を受けて事業を改善する（新しいことを行う、もしくは止める）という、PDCA サイクルを回すことによって、効果的で効率的で質の高い行政経営をしていこうとしています。このサイクルを回していく中で、先ほどからご説明しているまちづくり指標でもって、市も評価しますし、市民の皆さんからも評価をしていただきたい。そして、必要であれば事業の提案もしていただきたい。つまり、チェックのところに関わっていただきたい、アクションのところでも関わっていただきたいのです。

チェックは、重要なまちづくりの課題、これが改善しているかどうかということまちづくり指標を使ってチェックをします。その結果として、変えるべきであれば事務事業を変えますし、新しいことをやりますし、必要がなければ止めます。

計画の進捗状況の確認

総合計画の進捗状況の評価として、まちづくり指標の数値の変化は、今後毎年度確認をしていきます。主観的な数値の把握として、市民 3,000 人対象のアンケートを毎年度やります。もちろん、客観的な統計数値の確認も毎年度やっていきます。その数値の変化がどうなっているかを確認して、まちづくりの進み具合が改善しているのか、停滞しているのか、悪くなっているのかというようなことを評価していきます。そのときに、市もその結果によって評価をしますし、市民の皆さんにも評価をしていただこうというものです。そのための、市民と行政の共通のテーブルづくりとして総合計画推進市民会議というものを設置をしていこうと考えています。

この市民会議では、重要なまちづくりの課題が本当に改善しているのかという評価、市民の目から見た評価、そしてこういう事業が必要じゃないのかという提案をしていただくという大会の実施を考えています。

さらに、提案したものを市としてどう取り扱ったのか、やったのか、やらなかったのか、やらなかったとしたらどうしてやらなかったのかをきちんと確認する大会も開催しようと考えています。

今後の課題

今後の課題は、まちづくりに関わる様々な主体がそれぞれに役割を認識していただく必要があることだと思います。これまでは行政に任しておけばいい、という考えもあったかもしれませんが、今後、なかなかそういうわけにはなりません。それぞれに役割を認識し、それぞれに責任を果たしながら連携していきましょう、と考えています。

連携にも色々あります。一緒にやることもありますし、別々にやる連携というものもあるでしょう。いろんな連携の仕方でもってまちづくりを進めていくことが必要ではないかと思います。そのためには、いろんな市民への呼びかけを行って、関心や興味を引いていく必要もありますし、市としても、まちづくり指標を基にした成果の測定であるとか、事業改善とかそうしたシステムもきちんと定着をさせる必要がある、と考えています。あるいは、市民会議が立ち上がれば、市民会議の皆さんと関係部署との連携や協働といったことも必要だと思います。

まだ、これらの仕組みがきちんと出来ているとはいえませんが、そうしたことも頭に入れながら計画を推進していきたい、と考えています。